

横手の担い手として、農業の発展に尽力！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



農事組合法人 新東北AGRAS (横手市横手)

代表理事 林 龍太郎

経営概況

経営面積 | 水稻:16ha 大豆:2ha すいか:1.6ha

| WCS 作業受託:30ha

構 成 員 | 役員3名、社員2名、臨時雇用4名

同級生2人と令和2年5月に農事組合法人を設立した林 龍太郎さん。横手市名産のすいか「あきた夏丸」や「あきた夏丸チッチェ」、水稻、大豆栽培のほかWCS等の作業受託も行っています。先輩農業者から助言を受けながら地域に溶け込み、法人の評判が口コミで広がっており、地域の担い手として活躍しています。

▶ きっかけ

横手市出身ですが、農業とは縁のない環境で育ち、首都圏で会社員として働いていました。地元で起業したいと考え帰郷し、畜産農家でのアルバイトで農業に魅力を感じ、横手市が運営する「よこて農業創生大学校」で2年間研修を受けました。

専攻作物には、初期投資を抑えつつ、収益が見込める地元名産の「すいか」を選定し、栽培技術を習得しました。



●すいかの定植準備作業

▶ 取組

就農時は、農地も農機も無いため、市やJAに相談し、近隣の農業法人から農地を借り受け、国や県、市の補助事業を活用し、当面必要な農機を揃えました。

すいかは、地域の先輩農業者から管理作業の助言を受けたり、研修会に積極的に参加し、高品質かつ収穫量安定に向け栽培技術を磨いています。

また、就農を目指す若手農業者からの相談には、一緒に作業をしながらアドバイスを行っています。



●すいかの管理作業

水稻、大豆栽培のほか、WCS等の作業受託も行っており「知らない若者達が何かやっている。」から「あの若者達に作業をお願いしたい。」と頼られる存在となるよう、丁寧な作業を心掛けています。その評判が広がり、年々経営面積が増え、広域で営農を行うようになりました。



●たい肥散布作業

初期投資抑制のため、現在は、コンバインや乾燥調製施設は所有せず、

近隣の農業法人から借用し、繁忙時は協力しながら効率的な作業を行っています。



●収穫したすいか

▶これから

目指す姿をイメージし、法人名を農業(Agriculture)とIT用語RAS※から「新東北AGRAS(アグラス)」としました。作業依頼は可能な限り引き受け、地域の農地を守り、担い手として農業をさらに発展させたいと考えています。

今後は、酒米栽培や乾燥調製施設等の整備のほか、休耕地の有効利用のために試験栽培した「かんしょ」に手応えを感じ、作付けを検討しています。

※RAS とは、コンピューターシステムを評価する3項目の要素の頭文字をつなぎ合わせた用語。

Reliability(信頼性)

Availability(可用性)

Serviceability(保守性)

(●印写真: 農事組合法人
新東北AGRAS提供)

